


<p>団体名</p>	<p>NPO法人 北海道CAPをすすめる会</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>子どもの安心・自信・自由を支える北海道&amp;リアスCAP協働事業</p>
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>		<p>■活動風景</p>	
<p>●望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>すべての子どもの人権が守られ、「安心して、自信をもって、自由に選んで」生きることができる社会、子どもの心と身体を傷つける様々な暴力（虐待やいじめ、体罰、誘拐、性暴力など）から子どもが守られる社会、子どもを中心とした子ども共同参画社会の実現をめざす。</p>	<p>被災地域での おとなワークショップ の様子</p>	
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>子どもの人権を守り、子どもへの暴力を予防すること。 そのために子どもの年齢や学び方のニーズに合わせた子どもへの暴力防止CAPプログラムを提供する。 また子どもの周りにいる大人への啓発をすすめ、子どもを守るコミュニティーネットワークを構築する。</p>	<p>人材育成「一人前★」連続講座 の様子</p>	
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>プログラム実践をする有償ボランティア15人以上、事務能力を有する常勤スタッフ1人以上、運営を支えるボランティア10人以上。会員・スタッフの多様性（年齢、性別、職種、居住地）。セキュリティが保護されている情報管理と伝達のシステム。基盤活動は受益者負担と委託事業、緊急・重点活動は寄付金と助成事業で、運営の維持には会費と賛同者からの寄付を充てる。守秘遵守を含む運営マニュアル、子どもに関わるボランティアに必要な知識と行動指針ガイドライン。人材育成の仕組みと自己・相互評価基準。</p>		
<p>■活動報告&lt;400字程度&gt;</p>		<p>■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>	
<p>災害などで日常が脅かされたときには、子どもはより暴力被害に遭いやすく、優先してCAP（Child Assault Prevention/子どもへの暴力防止）プログラムを届けたい地域です。 本事業では、被災地域の子どもの人権を守り、子どもへの暴力を予防し、子どもの生きる力「安心・自信・自由」を支えることを目的に、被災地域で活動するCAPグループと協働で、CAP実践者を育成しながら、CAP普及活動を行いました。 また非常時に備えた平時の活動の在り方を見直し、日常的な人材育成とCAPグループ間連携を普段の活動の中に位置付けました。いつどこで災害がおきても速やかに協働体制をとるために、未実施の地域、子ども支援者、より必要とする子どもなどへの新規開拓CAPワークショップ提供に取り組みながら、平時から地域のキーパーソンとつながりました。</p>		<p><b>1) 被災地域でのCAP普及活動を行った。</b> ①CAPリアス（岩手県山田町）人材育成&amp;ワーク応援スタッフ派遣（1回）。会員1人増、ワークデビュースタッフ2人増。 ②北海道胆振東部地震地域で初の公開おとなワークショップを開催した。安平町1回・厚真町1回/参加者計25人 <b>2) 非常時に備えた平時の活動を再構築した。</b> ①新規開拓地域&amp;より必要とする子どもへのワークショップの提供 7箇所26ワーク（36回）/参加者子ども96人・おとな228人 ②日常的な活動に人材育成を位置付けた。/参加者計112人 ・「半人前一人前」スタッフ育成公開学習会13回（内オンライン2回）＊一般公開 ・「一人前★」スタッフ育成連続講座5回＊道内グループに公開 <b>3) 広報資料を作成した。各500部</b> ①非常時に支援物資に添えて届ける情報シール「こどもまんなか気持ちシール」 ②3年報告書「どおどCAP白書」</p>	
<p>■事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p>■望ましい社会状況を達成するための課題</p>	
<p>（1）広報普及する際のCAP成果の根拠となるデータを得るために2019年度版と同内容で、「子どもワークショップ事前事後アンケート2021-コロナ禍版（小学3・4年生45クラス1,265人）」を実施した。「安心とは選択肢が増えること」。実施後の「できること」の選択肢が1.4倍増（2019年度1.3倍）。その他の項目においても実施前実施後比が2021-コロナ禍版のほうが、できることのポイントがUPした。コロナ禍においてCAPワークショップの体験が子どもたちに、よりインパクトを与えたと推察できる。 （2）当会開発のCAPスペシャリスト「半人前一人前チェック」に加えて、CAPスペシャリスト「ルーブリック指標」を作成し、CAPスペシャリストのスキルを量と質の両面から取り組む仕組みができた。</p>		<p>非常時にこそ平時の活動が問われる。非常時に備えた平時の活動を常に見直し、人材育成と道内CAPグループ間協力を機能させておきたい。また子どもに関わる機関や団体や地域の方々とのゆるやかにつながり続けていくために、本助成事業期間内に達成できなかった、連携するための「こどもまんなか円卓会議」を推進する。 なにより、平時において、子どもの安心・自信・自由を支えるCAPワークショップを、子どもの年齢に応じて、定期的に受講できる仕組みをしっかりとつくるのが急務である。</p>	
<p>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>		<p>この1年間の活動を通じて 非常時に備えた平時の活動を見直し、人材育成のしくみの構築と非常時に届けたい情報シールの作成 を達成しました。</p> <p>■受益者の具体的な変化（自由記入） ①会員の76%がスキルアップに取り組みました。（CAPスペシャリスト3人増、プレプログラム資格取得3人増） ②ワークショップの新規お届け地域1市2町1村増、新規お届け先8カ所増で、新たなつながりができました。</p>	